

# 佐智だより

Vol.8

Aug.2019

## 『働く』と『いじり』

私事ですが、二十一歳で理学療法士(以下、PT)という仕事について、ちょうど四〇年になります。病院のリハビリテーション部、PTの養成校、そして平成六年から現在のいしかわ内科で働いてきました。これまで働けてきたのはPTという資格を取ったことを進めてくれた人たちが、ちょうど時代がPTを必要としていたことや、いろんな人たちとの出会い等々、本当に「おかげさま」という気持ちでいっぱいです。

影響を与えること、まわりの人たちを助けること、まわりの人たちのためになることなのです。もちろん収入を得て自分の暮らしを安定・充実させることや、仕事にやりがいや自己実現を目指している人もいます。しかし、人が生きていく存在している意義(意味)は何かと問われれば、やはり誰かの役に立っているということかもしれません。どんなに体が不自由でも、認知症でも、寝たきりでも何かのカタチで誰かの役に立てることがその人が生きる意味だと思います。

### 「沖縄の旅」

櫻元 洋

2004年、同級生の旅は沖縄へも行った。4月のゴールデンウィークまえの休日が旅の値段も安くいいのである。60歳をすぎると旅はいつでも設定できる。平和の礎は末弘モト子の父上がさきの大戦で輸送船で沖縄の海で撃沈されて眠っているのだから戦没者の名前を探した。20数万人の名前の刻銘のなかから探しあてた。親子の涙のまぼろしの対面であった。「お父ちゃん、モト子です。いま来たで〜」この会話のあいだだけ父がよみがえった。だがすぐまた青い海にきえていった。かつて死闘が展開された魔文仁の丘は鹿耳樹が暑い陽射しから碑を守り、丘にはブーゲンビリアが咲いていた。

同級生の中には未だに父が南から帰らない人もいます。



そして、そのお手伝いをするのが本当のリハビリテーションといえるでしょう。今回の参議院選挙で車椅子の重度の障がい者が二名当選して国会議員としての役割を果たしていくことになりました。これまでの国会の歴史を大きく変える出来事と言われています。それは車いす用の通路や段差を無くすなどのハード面だけではなく、国会議員の皆さんを始め国民の多くの固定観念を変える出来事だからです。難病ALS(筋萎縮性側索硬化症)患者の船後靖彦(ふなご)・やすひこ氏は全身が全く動かず、人工呼吸器とチューブを通じて流入食を流し込む胃ろうを装着、歯で噛むセンサーを使ってパソコンを操作し、介助者を通じてコミュニケーションを取っているそうです。生産性が高いものを尊ぶ文化、金もつけがうまい人を尊敬する風潮、人間の価値を生産性のみで捉え、優生思想や障害者差別がいまだに蔓延する日本に身をもって戦いを挑んだように見えます。世間ではいろいろな



意見があるようですが、彼の行動は多くの障害者に勇気と希望を与えたことは間違いありません。

人の話くらぶ佐智のご利用者にも復職の努力をしている人が数名います。また、仕事とまではいなくても家族や周りの人たちのためになることを頑張っている人もいます。身体が不自由になつたり、言葉が出なくても「傍を築く」ことができる、何かの役割を獲得して自分の存在意義を自他ともに認識できる。人の話くらぶ佐智のスタッフも全員一丸となつて今後もそのお手伝いをさせていたきたいと思えます。(管理者 田原公彦)

### 調理訓練

以前使用していた厨房室にて、利用者様とゴーヤーチャンプルを作りしました。対象の利用者様は「自宅で調理をしたい」という希望があり、まずは実際にやってみようということで、自宅で調理を行っている他利用者様と一緒に実施しました。片手のみでの調理動作となるため、具材を包丁で切る動作や卵を割る動作、フライパンで炒める動作など難しかったと思います。協力して美味しく作る事ができました。

今後、自宅で調理が安全に実施できることを目標に調理器具の検討や片手での動作練習を行っていく予定です。(OT 柳田)



### 運営推進会議

八月二十二日、今年度第一回目の運営推進会議を開催しました。委員になって頂いている、竹田会長、黒木さん、ご家族代償で後藤さんにお集まりいただきました。また、包括支援センターが行事で出席できないとだったので、今回は初めて宮崎市の生活支援コーディネーターの木原さんと中瀬さんにご出席いただきました。管理者より運営状況を説明した後に、委員からは利用者が増えているが定員は増やせるのか等のご質問を頂きました。また、生活支援コーディネーターとの今後の連携についても協議しました。

### 夏の健康対策

暑さから身を守るには、そもそも熱中症とは人間の体には体温調整機能が備わっています。常に体内で熱を作り出している一方、自律神経を介して血液や汗を調節し、適度な体温を保っています。しかし、気温や湿度が高い・風が弱い・日差しが強いなどの環境下では体温調節機能が乱れて体内の水分やナトリウムバランスが崩れ障害が起こります。



- 1 暑い時間の外出を避ける。
  - 2 こまめに水分補給を行う。
  - 3 室温調節をおこなう。
- 熱中症は室内でも起こりますので、室温を26〜27に設定しましょう。もし、外出先などで体調に異常を感じたら風通しの良い日陰、クーラーが効いている室内へ。きついベルトはゆるめ風通しを良くし、体からの熱の放散を助けます。皮膚に水をかけ、うちわや扇風機で体を冷やすのも方法の一つです。いかに早く体温を下げる事が出来るかが悪化させないポイントです。また、水分補給をするときは、スポーツドリンクや経口補水液、水や麦茶には塩や梅干を入れて塩分補給をしましょう。誰もが成り得る熱中症、正しい知識で夏を乗り切りましょう。(看護師 牧野)



# 失語症者向け意思疎通支援者養成講座について

失語症者向け意思疎通支援者とは、「失語症のある人とのコミュニケーションについて、一定の知識と技能を有し、失語症のある人を支援する者」と定義されます。都道府県の主催する「失語症者向け意思疎通支援者養成講座」を受け、都道府県の認定を受けた者が支援者として、その後生活場面へと派遣されます（派遣事業に関しては任意）。

まだ事業は正式に始まっていませんが、たとえば、障害者手帳の手続きをしに、市役所に行く。そこに同行し、必要な書類を教えたり、制度の説明などを分かりやすく伝える。病院の受診に同行し、医師など

の説明がどのような内容であったか、そこに同行し分かりやすく文字提示等をして説明するなどといった支援内容になります。平成三十年から失語症者意思疎通支援者養成研修が都道府県の実施する必須事業に位置付けられ、宮崎県では平成三十一（令和元）年度は周知事業、令和二年度から養成事業を行っていきま

す。養成カリキュラムは失語症の症状やコミュニケーション方法などの講義が十二時間、実際に失語症者と外出同行し、会話や介助方法を学ぶ演習が二十八時間あります。失語症の方はコミュニケーション障害により、一人で外出

できなくなったり、家庭内の役割を失ったり、公共交通機関を利用できなくなったりなど生活上で困難となることが多くあります。しかし、失語症という病気の認知度も低く、正しい病気の理解や支援が得られないという現状があります。行政の事業で失語症に特化した意思疎通支援事業が開始されます。言語聴覚士だけでなく、十八歳以上の方ならだれでも参加できる事業です。（熊本では、看護師、発達支援、介護士、言語聴覚士学生など参加）十一月二十四日には事業説明会もありません。興味のある方は是非参加してみてください。（詳細は未定。分かり次第ホームページなどでお知らせします。）

（S T 奥村）

## 食中毒を予防しましょう！

我が国では、年間食中毒罹患患者数は例年三から四万人前後であり死者の発生も有ります。季節的には七月から十月が、多くなっている。原因物質の殆どは、細菌性です。魚介類には腸炎ヒトリオ菌、鶏卵・肉にはサルモネラ菌が発生すると報告されて、対策として、食品に病原菌を付着させないこと、これを繁殖させないこと、これを殺菌すること、つまり、しっかりと洗い、熱を通し必要時には

冷所保存をして、調理後約二時間で摂取するように注意する必要があります。食中毒の症状は発熱・腹痛・下痢・嘔吐が有り、体力を消耗しますのでしっかりと管理しましょう。また暑い季節は皮膚トラブルも多くオムツ内の蒸れなど不快だけでなく排泄物に潜む細菌が繁殖して感染症に注意が必要な時期でも有ります。頻繁にオムツ交換に心掛け、洗浄後の乾燥を促す事にも心がけて下さい。

（看護師 橋口）

## ことばの先取り

ことばがスムーズに出ない方と会話をしているときに、ついついこちらが相手の言いたいことを先に言うてしまうことがあります。

Aさん「昨日・・・娘が・・・かえ」

私「帰ってきたの？」

Aさん「そうそう、それで・・・また・・・こども」

私「また子供ができたの？ おめでとうございます」

Aさん「あ・・・りがとう・・・ございます。」

最初の単語の一文字目を聞いた時に相手の言葉を待たずにこちらが言うてしまう、これをことばの先取りと言います。相手が話している最中に話の展開を読み解き、先にこちらが口にしてしまうことです。相手のペースで会話をしなければと思いながら、もう少し待てばその言葉が相手の口から出るかもしれないのに、それを遮るようにこちらが言うてしまう。私自身、ご利用者と話しているときにこのように先取りしてしまっは反省しています。ことばの先取りをするということは自分の心にゆとりがないことです。相手と自分にゆとりのある「間」がつかれない、「間がない」つまり「間抜け」なのかもしれません。反省！（田原公彦）



写真は祇園地区の夏祭りの様子

## TOPICS

### 地区祭り

8月3日土曜日に、祇園地区の夏祭りが行われました。普段から利用者様の屋外歩行訓練など、佐智周辺の公園に出向き、すれ違つ方々に気持ちのいい挨拶を頂いております。とても恩恵をかんじているので、地区のお祭りを盛り上げるお手伝いにも心がこもります。お祭りの開始前から公民館で何度も話し合いをしてこられた自治会会長を始め、役員の方々が暑いなか西日を浴びながら各テントを回りながら声を掛けて下さいました。開始3時間以上前から汗が拭きだしてしました。そして、お祭り開始：少し前から子供たちが、家族連れが集まっておられました。私たちは、今年もフライドポテトを担当させて頂きました。最初の

お客様は、元気に走ってきた可愛い小学生二人組の男子女子でした。いつから買えるか、様子をうかがっていたそうです。ようやく西日の暑さが落ち着いてきたころ、お客さんが切れ目なくなってきました。そんな中、佐智の利用者の女性がご家族と買いに来てくださいました。「にぎやかねー」と言いながら、娘様たちを紹介して下さいました。普段のご利用時から、優しい表情を見せて下さいますが、さらに、さらに優しい表情で、「暑いのに、頑張ってるね」との言葉を頂きました。テント内の職員から笑顔がこぼれました。周りのテントも大反響のようで、行列が絶えません。てーじパフォーマンステージパフォーマンスの数々（ハワイアンダンスなど）や、井戸端会議もいたる所で盛り上がりを見せていました。気持ちのいい汗をかいて感謝、感謝です。

（石川）

### 登録者の内訳

男性：17名 女性：19名

平均年齢 73.9歳

年代構成：40代：3名、50代：3名、60代：6名、70代：11名、80代以上：11名

### 利用空き情報

現在の利用者数 (定員18人)

月	火	水	木	金	土
17人	14人	10人	18人	15人	10人

佐智だより NO.8 (令和元年8月23日)

医療法人社団三友会 人の話くらぶ佐智

Tel:0985-89-2772 Fax:0985-89-2773

(所在地)

〒880-0024 宮崎市祇園2丁目17番地1